

公益大ニュース No.11

02	—	03	対談	「A	」	と	社会	」	,	04			
—	05	研	究	活	動	,	05	教	員	の	新	著	,
06	—	07	教	育	活	動	,	08	—	09	お	答	え
し	ま	す	,	10	—	11	地	域	・	学	生	活	動



生成AIで変わる社会

対談者

准教授 植田 和憲 (メディア情報コース)
 講師 ノヴァコフスキ・カロール (同上)
 (司会は特任教授 加藤 嘉明)



◀Karol NOWAKOWSKI

ポーランド出身。北見工業大院工学研究科生産基盤工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。専門は自然言語処理、計算機言語学

うえだ・かずのり▶

大阪大院情報科学研究科博士後期課程修了。博士(情報科学)。大阪大院助手、高知工科大講師を経て現職。専門は情報ネットワーク、無線ネットワーク、自律ネットワーク



注文どおりに文章や画像をつくってくれる生成AI (人工知能) が普及し、便利になる一方で、さまざまな問題も浮かび上がっています。新たな産業革命とも呼ばれるAI技術が社会に与える影響について、本学メディア情報コースの研究者が対談しました。

——産業界を中心に急速に浸透している生成AIですが、基本的な仕組みを教えてください。
ノヴァコフスキ コンピューターが文章や画像などのデータから規則性を見つけて、元のデータに似ているコンテンツを生み出します。文章であれば、文脈を読み取り、その単語の次に来る可能性がもっとも高い単語を予測することの繰り返しで文章を生成していきます。

文章・画像は人間上回る

——何がどこまでできるのでしょうか。

植田 しゃれた文章は書けなくても、厳密さが求められる文章作成は人間を上回ります。コンピューターのプログラミングでも、簡単な課題であればすぐにソースコードが得られます。

ノヴァコフスキ 生成AIが作った文章、画像は、人間が書いたり撮影したりしたものほとんど判別できず、人間向けの試験でも平均以上の点数を取ります。米国の統一司法試験問題を解かせたら上位10%に入ったと話題になりました。

——生成AIの普及に伴う課題も出ています。

植田 これまで人間がやってきた仕事がいつ

の間にかAIに置き換わっており、日常生活でも気づかぬうちにAIを相手に会話しているような現状があります。部分的にAIの力を借りる場合も多く、そうした複合的な生成物は、どこまでが人間の成果なのか判然としなくなっています。

ノヴァコフスキ 生成AIに組み込まれた大規模言語モデルは、何が正答かではなく、何が正答らしく見えるかを予測しています。このため事実ではない内容を自信ありげに答えることがあり、「AIの幻覚」と呼んでいます。

植田 誰かになりすました音声情報や、精巧

な偽画像、偽動画をつくって拡散するコストが大幅に下がれば、世論操作や詐欺などの犯罪に使われるリスクも高まります。



「幻覚を見るロボットのイラスト」というノヴァコフスキの指示に対して画像生成AI (Bing Image Creator) が生成した画像

—AIも人間が与えたデータをもとに判断するのであれば、限界があるのではないのでしょうか。

ノヴァコフスキ AIに学習させたデータに差別や偏見があれば、AIの答えも差別や偏見を帯びるのは避けられません。そこで、回答中にたとえば性別に対する

偏見がないかをチェックし、修正する研究も進んでいます。

植田 既存の生成物を組み合わせて新たな生成物を生み出すので、著作権の所在が問題になるでしょう。生成AIに指示を出した人の著作物とは言い切れず、AIがどんな元データを使ったのかがブラックボックスだと、さらに話がややこしくなります。

創造的な仕事も脅かす？

—AIは人間の仕事を奪うのかがよく議論されています。

ノヴァコフスキ AIはデータの規則性を学びながらうまくなるので、AIやロボットで代替できるのは単純作業だと言われてきました。しかし最近の動きを見ると、かなり創造的な仕事もしわ寄せを受ける可能性があります。

植田 経理やオペレーター、受付業務など一般化できる仕事にとどまりません。代替されにくい職業とされてきた大学教員も、一部の業務に関しては取って代わられる可能性があります。たとえば別の分野の知見を応用して新たな理論を生み出す研究手法は広く認められてきましたが、こうしたことをAIは簡単にやってしまいます。

—AIが人類を超えるシンギュラリティ（技術的特異点）は来るのでしょうか。

植田 独創性は人間が上回っています。漫画家を例にとると、背景を描くのは生成AIに任せるとしても、主要な登場人物に性格付けを

しながら表現するような描き方はAIには難しい。既存のデータをもとにする限り、AI作品に真の個性は出ないと思います。ただし、学習データにない要素も無作為に加えることで新しいものを生み出す研究も進んでおり、今

後の技術の進歩しだいでは人間を超えられないとは言いきれません。

**改良のベースとして活用を
過信せず、必ず裏付けをとる**
——植田
——ノヴァコフスキ

ノヴァコフスキ いまお話のあったランダム性は生成AIにすでに取り入れられており、文章作成では、あえて適合確率の低い単語を一部与えたほうが、品質が高まることがわかってきました。

—最後に、AIを使うときの注意点を。

植田 いまのところ生成AIが出してくるのは平均的な成果物です。いきなり高度な結果を求めず、改良するためのベース、自分の基礎力を高めるツールと考えて活用すれば大きな武器になるでしょう。

かつて「AI時代でも残る」とされた職業にも置き換えの可能性がある	
アナウンサー	ツアーコンダクター
インテリアデザイナー	ディスプレイデザイナー
音楽教室講師	日本語教師
観光バスガイド	フリーライター
コピーライター	放送記者
作詞家	マーケティング・リサーチャー
商業カメラマン	マンガ家
商品開発部員	ミュージシャン
スポーツライター	メイクアップアーティスト
大学・短期大学教員	旅行会社カウンター係

注)野村総合研究所と英オックスフォード大研究者の共同研究(2015年12月発表)で「人工知能やロボット等による代替可能性が低い」と分類された100の職業から植田が抜粋

ノヴァコフスキ AIはその人が苦手なことを補って生産性を高めてくれます。文章を速く書けないという人は、生成AIに原案づくりを頼んで修正していけば効率的にできます。しかし間違いもあるので、必ず裏付けをとる。このプロセスを怠らないことが重要です。

起業で地域を変革 ～本学研究所が設立シンポ

東北公益文科大学が2023年7月に設立した「起業（ギョウヲオコス）研究所」の発足記念シンポジウムが同年11月25日、酒田市のガーデンパレスみずほで開かれ、企業経営者や地方自治体、金融機関などから100人を超える方々が参加しました＝写真。

同研究所の客員研究員で内閣官房デジタル行財政改革会議事務局参事官の小林剛也氏がモデレーターを務め、研究所の目的について「公益大の機能強化の柱として、起業マインド



を持った人材の育成がある。自ら事業を立ち上げる人に加え、組織の中で新たな価値を創造する人も含めて地域を変える人材を送り出したい」と説明しました。

続く討議では、鶴岡市で農産物や米俵をネット販売する田和楽の代表取締役の佐藤智信氏、酒田市の映像制作会社オリーブの代表取締役で映画監督も務める橋本道春氏、同市で訪日外国人向けの旅行商品を企画・販売するThe Hidden Japan代表の山科沙織氏が、それぞれの起業の経緯や今後の事業展開などを語りました。3氏の経験から、異分野の知見を組み合わせることで新たな発想が生まれること、事業運営ではデザイン性が重要であること、などの論点が浮かび上がりました。

本学では研究所の中核プロジェクトとして、起業家と学生が交流する新講座「起業マインド」育成プログラム『アントレプレナーシップ演習』を2024年4月から開講する予定です。（加）

電動モビリティシステム専門職大と本学

研究人材育成で連携探る

東北公益文科大学と電動モビリティシステム専門職大学（PUEMS、山形県飯豊町）は2023年9月22日、研究マネジメント人材の育成に連携して取り組むための共同研修会をオンラインで開きました＝写真。

本学の神田直弥学長が「地域課題を解決するうえで避けて通れない移動の問題を専門に扱う貴学と連携し、今後何ができるか検討したい」と呼びかけたのに続き、小野敦・産学官連携コーディネーターが公益大の産学官連携の実績や課題について説明しました。これを受けてPUEMSの古川修教授（産学連携地域共創センター長）は文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」への2024年度申請に向け、本学との協力関係の強化を求めました。同事業についてPUEMSは県内外の大



学、企業、行政と組んでリアル空間とサイバー空間にまたがる「地域社会総合シミュレータ」の構築を目指しています。

質疑では両大とも「先端技術の社会実装に際してはニーズの正確な把握が重要であり、モビリティを専門とするPUEMSと、人文社会系の公益大が手を組む余地は大きい」との見方で一致し、今後とも勉強会などの形で多様な連携の可能性を探ることになりました。（加）

大内宿の保全策を追究 ——「長谷川賞」を受賞して

助教 張 紅 (観光・まちづくりコース)



2023年度東北地理学会春季学術大会において、私の論文「大内宿における歴史的街並み保全を促進する要素の考察」(季刊地理学74巻 第1号

所収、2022)が、第16回東北地理学会研究奨励賞(長谷川賞)に選ばれました。

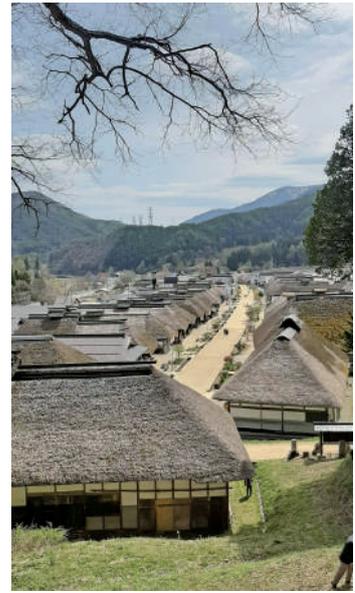
東北地理学会は自然地理学、人文地理学の両分野の研究者により構成される全国学会で、長谷川賞は若手地理学研究者の育成を目的とする賞です。上述の論文は、福島県大内宿を事例に、地域住民による歴史的街並み保全に

関する意思決定の分析を通して、経済的要素、公共的要素、社会的要素が集落に同時に作用してはじめて、歴史的街並み保全が促進されたことを明らかにしました。

本研究は長期間にわたる住民の歴史的街並み

保全に関する意思決定の過程を、詳細な資料分析と綿密なフィールドワークによって明らかにし、さらに他地域の歴史的街並み保全の分析に有益な視点を提供したことから、高い評価を受けたものと考えています。

今後は、引き続き本研究で得られた知見の他地域への応用可能性を検証してまいります。



大内宿(福島県下郷町)
=筆者撮影

研究活動

上梓しました

『商品開発・管理の挑戦—デザイン、ラグジュアリー、ブランド、社会課題』 後発薬への見方—変も

准教授 広崎 心 (経営コース)

近年、ジェネリック医薬品(後発医薬品)の普及が進み、多くの方々が服用されていますが、「ジェネリック医薬品は先発品と比べて多少劣る点はあるが、ほとんど遜色ない」といったイメージをお持ちの方もいると思います。しかし、実際はジェネリック企業間の競争はすさまじく、患者がより服用しやすくなる、あるいは飲み違いや飲み忘れを防ぐためのアイデアを満載し、競合するジェネリック企業だけではなく、先発品企業よりも優れた剤形に施して製品を発売する企業もあります。それ以外にも、先発品企業が保有する特許権の無効性を訴えて他社よりも早く製品を発売する企業もあります。

本書は、私が理事を務める商品開発・管理学会からの要請により、2010年代に大きく成長し進化したジェネリック医薬品業界で起きた企業



間競争について、各社による付加価値商品開発戦略の視点を中心に執筆しました。一読していただくと、ジェネリック医薬品に対するイメージが大きく変わると思います。

(共著、晃洋書房、272ページ、3,960円)

教員の
新著



科学イベントや学会で成果発表

本学では国立研究開発法人科学技術振興機構の採択を得て、2021年度より「ジュニアドクター鳥海塾」を開講しています。日本の科学技術イノベーションを牽引するような小中学生を発掘し、さらに能力を伸ばす事業です。塾生は外部の発表の場にも積極的に参加しており、2023年度は全国規模や東北全域の科学イベントに出場して多くの賞を獲得したほか、学会で大人の研究者に交じって発表するなど、研究成果を相次ぎ世に発信しています。

地域活性化WebVRが最高位「研究発表大賞」

2023年11月4日と5日の両日、全国のジュニアドクター育成塾から各1組の代表が集まり、各々の研究発表を行う「サイエンスカンファレンス2023」が東京都江東区の東京国際交流館で開催され、本学からは8月の学内選考会で選ばれた吉村奈夏さん(酒田市立第一中学校3年、写真右)が出場しました。それぞれの育成塾で選抜された代表者が集まる会だけのことはあり、どの発表も小中学生の域を超えた高度なもので、未来を託す人材の才能の花開く過程に立ち会うことができる充実感を得ました。大会2日目が審査結果発表です。酒田市中心部の活性化策を狙いとした吉村さんの研究『多くの場所に貢献できる地域活性化WebVRの構築』は、審査員が特に高度と認める『研究発表大賞』10件の一つに選ばれました。



仙台のサイエンス・デイで4賞

体験型・対話型の科学イベント「学都『仙台・宮城』サイエンス・デイ」が2023年7月16日に東北大学の川内北キャンパスで開催されました。17回目の今回は学校や研究機関などから123プログラムの出展がありました。面白いのは主催者側だけでなく、参加者だれもが申請すれば賞の授与者になれる点です。本学「鳥海塾」のメンバーは、宮城大学からの「Wow Award」、東北大学工学研究科の「未来への挑戦賞」、IEEE Sendai WIEの「活躍賞」を得たほか、主催者による「ベストプレゼンター賞」を獲得しました。(教授 広瀬 雄二)

中3生が学会発表

—「交通安全教育」で鶴岡中の成田さん

鳥海塾の3年目塾生の成田怜央さんが2023年9月8日、千葉市で開かれた日本人間工学会の大会にオンラインで参加し、研究成果を発表しました=写真。成田さんは鶴岡市立鶴岡第四中学校の3年生。神田直弥教授のもとで、タブレット端末を使った自転車交通安全教育について学んできました。

司会者に「成田先生、よろしくお願ひします」と促されて登壇しましたが、「自宅で3日間、繰り返し練習した」だけあって、説明後の質疑にも堂々と対応しました。今後については「この教育プログラムを改善し、実際の中学校の交通安全教育で生かせるようにしたい」と熱っぽく語ってくれました。



プロジェクト型応用演習「POS分析」 (教授 神田 直弥) 年末商戦の売り場づくりに挑戦

株式会社True Data、株式会社チャンピオン、酒田市産業振興まちづくりセンター サンロクに本学を加えた4者協定を締結し、2023年度の秋学期から開講しています。ホームセンターを運営する株式会社チャンピオンから同社酒田店のPOSデータ（販売データ）を提供いただき、True Dataの支援を受けながら分析し、売り場づくりの提案を行います。今回のテーマは日用雑貨商品の「年末商戦の売り場づくり」です。

店舗視察やPOSデータ分析の演習の後に、チームごとに検討をスタートしました。まずは、居住地や家族構成などチャンピオンのお客様を想定したペルソナ（照準顧客像）の設定です。次に、ペルソナが関心を示す売り場のコンセプトを定め、取り扱う商品や棚割を分析したデータに基づ



いて決定しました。

発表会では「掃除の後はおやつタイム！」などのキャッチコピーや、「ついで買い」を狙う棚割など、各チーム工夫を凝らして提案しました。これを受け、12月には年末商戦の催事コーナーで商品陳列や手書きポップの貼り付けに取り組み＝写真、年明けには実際の売り上げデータをもとに効果測定を行いました。

見
目
授
業

基礎演習b「鳥海山・飛島ジオパーク」 (教授 呉 尚浩) 2500年の歴史を体験・調査・発表

鳥海山・飛島ジオパークの魅力発見をテーマに、体験する（動く・出会う・感じる）、調査する（見る・聞く・調べる）、そして発表する力を育むべく、2018年に開講しました。

ジオパーク推進協議会とジオガイドの皆さんの協力を得て、2023年11月23日に秋田県にかほエリアのジオツアーを実施。午前中は元滝伏流水、川袋川の鮭遡上、上郷温水路、仁賀保高原南展望台＝写真、土田牧場を見学。午後は「にかほっと」で昼食、道の駅・象潟ねむの丘の展望塔から九十九島、飛島の眺望を満喫し、花見島、唐戸石、象潟郷土資料館を巡るコースです。

今回の学びは、約2500年前の鳥海山の山体崩壊から1804年の象潟地震による海底隆起までのジオストーリーに各スポットを位置づけ、その有機的なつながりを理解することがねらいです。例えば、唐戸石は、海岸に一際目立つ高さ約4mの大岩ですが、鳥海山の山頂近くにあった岩が山体崩壊で海中に押し流された後、地震後の約2mの隆起で再び地上に姿を現したという物語の語り部なのです。

報告会では、大学生向け、外国人向けなど発信する対象を想定して、自ら体感したジオパークの魅力伝えるプレゼンをすることで、各班が学習の成果をいきいきと伝えました。



お答えします

素朴な疑問から地球規模の難題まで——
あらゆる「？」に本学教員がお答えします。

お答えします

Q. 最近耳にする「グローバルサウス」って何ですか？

A. 存在感増す新興国。大国中心ではない世界観打ち出す



回答者：
准教授 東江日出郎

「グローバルサウス」に明確な定義はありませんが、アジアやアフリカ、大洋州、南米などの新興国や発展途上国を指す用語です。国連では2011年以降使われ始めました。インドは

2023年1月に「グローバルサウスの声サミット2023」を開催しました。この会議には、中南米29、アフリカ47、欧州7、アジア31、オセアニア11の計125か国が参加しました。

グローバルサウス目線で国際関係を観ることに、国際社会で圧倒的多数を占める新興国・途上国を視野に入れない先進国・大国中心の見方を修正する意味があります。新興国や途上国にも各々の国益や地域の論理があり、それを無視しては世界の真の意味での理解はできなくなっています。

193の加盟国がそれぞれ1票を持つ国連総会では、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻に非難決議が行われましたが、そこでも欧米や日本を中心とする西側諸国と、ロシアや中国との対立だけでなく、グローバルサウスのスタンスも顕著に見えました。ロシアのウクライナ侵攻への非難決議では、賛成141票とロシアを圧倒

的に非難していると解釈できる得票数を得ましたが、棄権や無投票にまわる国が約50あり、それがアジア・大洋州やアフリカ諸国でした。

2023年10月27日のイスラエルのガザ侵攻問題への非難決議では、逆のパターンが見られました。イスラエルを非難する賛成票が121で反対票が14、そして58票が棄権か無投票でした。植民地を長く経験してきたアジア・アフリカの新興独立諸国に反対や棄権、無投票をした国は無く、棄権か無投票にまわったのは、イスラエルやその支援にまわる米国と緊密な先進諸国でした。

グローバルサウスの動きからは、ロシアのウクライナ侵攻はロシアだけが悪いわけではないと考え、イスラエルのガザ侵攻はひとえにイスラエルが悪いと考える国々が少なからずある、ということが分かります。これは国際社会の一種の道徳的力学と言えるもので、欧米のダブルスタンダードを批判している、とも解釈できます。



インドが呼びかけたオンライン会議「グローバルサウスの声サミット」には、世界のほぼ3分の2の125か国が参加した(インド首相府HPから)

Q. 自治体職員になるにはどんな準備が必要ですか？

A. 試験勉強は執念と忍耐。本学も対策講座で支援

まず公務員試験に合格しなければ、公務員として仕事をすることはできません。公務員試験においては近年、専門試験を廃止したりするなど受験者の負担を減らし、より多くの幅広い受験者を確保しようとする傾向があります。また、鶴岡市のようにプレゼンテーション面接を導入するなど、多様化も進んでおります。面接を中心とした二次試験重視、人物重視の傾向もあります。このように公務員試験をめぐる状況は近年大きく変化してきております。

こうした背景には、地方分権の進展に伴って自治体に求められる期待と役割が大きくなってきており、複雑・高度化する行政課題や住民ニーズに対応できるかなど自治体職員に求められる能力も大きく変化してきているという現状があります。職員の採用試験においてもそうした変化に対応する必要があるのです。

ただし、酒田市など専門試験を科す従来型の公務員試験を設けている自治体も数多くあります。専門試験については、行政職の場合、憲法・民法・行政法などの法学、ミクロ・マクロ経済学などの勉強がメインとなり、長期間にわたる膨大な試験勉強をしなければなりません。いわゆる「受験勉強」です。この専門試験を科す公務員試験に合格にする—その神髄は—「執念」と「忍耐」。つまり、絶対に合格するという「執念」、そして試験勉強への「忍耐」において勝るかどうかが、それが勝負の分かれ目となります。最後まで「執念」と「忍耐」をもって諦めなかった者が自治体職員への挑戦権を手にするといえます。さらに「四当五落」の強い精神と気迫で机に向かうことも必須です。

本学では公務員試験対策に力をいれております。特に公務員対策講座が強力な取り組みとなっており、これまで多くの合格者を輩出しております。その他にも様々な面から公務員試験合格をサポート



回答者：
教授 小野 英一

しており、例えば私の担当科目「地方自治論」「公共経営論」などでは授業内容と関連する過去問の問題演習と解説を適宜取り入れながら学ぶことにより、授業の勉強が公務員試験対策につながるようになっております。

本学では2022年度に過去最高となる53件の公務員試験合格を出しました。公務員になる—その夢の実現を公益大は応援しております。

おもな公務員への合格件数（過去3年間）			
都道府県職員		市町村職員	
山形県	7	庄内町	1
秋田県	2	高島町	1
青森県	1	大石田町	1
東京都 福祉保健局 (福祉2類)	1	大江町	1
		川西町	1
		舟形町	1
市町村職員		警察官、自衛官、 消防職員、公立病院	
鶴岡市	4		
寒河江市	3	山形県警察	9
飯豊町	3	陸上自衛隊一般幹部候補生	3
長井市	2	酒田地区広域行政組合消防本部	2
遊佐町	2	警視庁	1
小国町	2	東北管区警察局	1
山形市	1	東京消防庁	1
天童市	1	西置賜行政組合消防本部	1
村山市	1	公立置賜総合病院	1
新庄市	1	その他の国家公務員	
三川町	1	国立障害者リハビリ テーションセンター	2
山辺町	1		
戸沢村	1	法務省矯正局	1

注)2020~22年度の合格者数を、国家公務員と、山形県内の地方自治体等を中心に掲出

「子どもの意見表明権」めぐり討議

——本学大学院で公開シンポ

地域・学生活動

東北公益文科大学は2018年に日本初の大学院における「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」を開設しました。スクールソーシャルワーカー（SSWer）は、貧困、虐待、ヤングケアラー、いじめ、不登校など子どもを取り巻く厳しい環境を改善して行く専門職です。同課程では、子どもの抱える課題や支援方法を広く市民と共有するための公開シンポジウムを毎年開催しています。

2023年度は10月14日に酒田キャンパスにて、子どもの権利条約第12条に掲げられている「子どもの意見を表明する権利」をテーマに開催しました。基調講演では、社会福祉士で東京都葛飾区児童相談所常勤弁護士の安井飛鳥さんより、「大人は子どもを保護する客体としてだけではなく、対等な権利の主体として捉え

なおすことが必要であり、そのためには子どもの声を聴く対話的対応が求められる」ことなどをお話し頂きました。

当日は子ども政策担当の加藤鮎子大臣よりメッセージを頂き、基調講演の後には白梅学園大学の牧野晶哲准教授、安井さん、秋田県SSWerの鎌田明子さん、本学大学院生の後藤真琴さんによるミニシンポジウムを開催しました＝写真。



現場からの問題提起を含め、子どもアドボカシーの奥深さに引き込まれる一日となりました。

（研究科長 武田 真理子）

言葉の重さ、胸に迫る

「原爆投下から78年」を企画して

4年 大沼 蘭（国際教養コース）

鶴岡市にお住いの洋画家、三浦恒祺さんからうかがった被爆体験は心にずしりと響くものでした。共創カフェは学生自身が発案し運営する催しです。戦争を実体験された方から直接話を聞いて後の世代に語り継いでいけるのは、私たちが最後の世代だろうと考え、



2023年8月25日、本学に三浦さんをお招きしました＝写真。

三浦さんは15歳のとき、広島市の爆心地から4キロの場所で被爆しました。「黒い塊のような焼けた人の集まりがあった」「焼けただれた姿の人から手を伸ばして水をくださいと言われたが、水を持っておらずあげられなかった」などと、原爆投下直後の街の様子を話していただきました。一つひとつの言葉が非常に重く残酷で、戦争の現実を強く感じました。

戦争を体験していない私たちができることは「戦争をさせない」「平和を大切にする」、そして「戦争の記憶をなくさない」ことだと思います。この講話で学んだことを忘れずに語り繋いで、戦争のない平和な世界を共に作っていきたいです。

学生参加の図書館づくり 行ってきました「選書ツアー」

東北公益文科大学の図書館では、学生選書ツアーやビブリオトーク、雑誌リクエストなど、学生参加型の企画を実施し、利用促進に取り組んでいます。

学生選書ツアーは学生が職員とともに書店に行き、配架してほしい本を選ぶ企画です。本学保護者会のご支援を受けて、年に2回ほど開催しています。2023年11月8日には、三川町の戸田書店で今年度2回目の選書ツアーを開き、1年生3名、3年生1名が参加しました=写真。

およそ1時間半の間に、一人当たり2万円ほどの書籍を



選ぶことができます。文芸書を中心に、英語学習やデザイン、音楽、旅行など、幅広いジャンルの本が選ばれました。2万円分の書籍を選ぶというのは、学生ではなかなかできない体験であり、「最近本に触れる機会がなかったので参加できて良かった」などの感想が寄せられました。

選ばれた書籍には、表紙と背表紙に「学生選書ツアー」のシールを貼ります。図書館で書籍を選ぶ際に参考にさせていただくとともに、学生がどのような書籍を選んできたのかも楽しんでいただけたと思います。

今後も様々な企画を通して学生と触れ合い、学生生活を充実させる図書館づくりを目指しますので、ぜひ図書館にお越しく下さい。

(公益大図書館司書 佐藤 美咲)

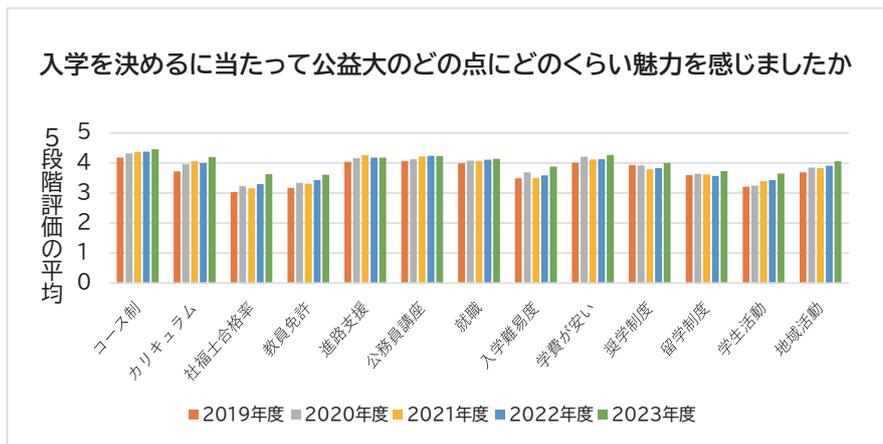
データでみる公益大

「進路支援」「安い学費」が人気～新入生アンケートから

本学では新入生から毎年入学時にアンケートに答えてもらっています。質問内容は本学に入学を決めたきっかけ、魅力を感じた点、進みたいコースなどです。回収率はほぼ100%で、本学の教育環境の改善に大変有用なデータとなっています。

このアンケートの中で「入学を決めるにあたり公益大のどの点にどのくらい魅力を感じましたか」という質問について2023年度までの5年間の回答を分析しました。各項目について「感じなかった」から「あまり感じなかった」「どちらともいえない」「やや感じた」「感じた」までそれぞれ1～5点を割り振り、評価の平均をグラフにしたものが下図です。ほとんどの項目で年々評価が高くなっています。特に評価が高いのは「コース制」「カリキュラム」「進路支援」「公務員講座」「就職」「学費が安い」の項目で、新入生が教育や就職・進路支援という点に魅力を感じて入学を決めたのがよく分かります。

(IR担当、教授 山本 裕樹)





東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

<https://www.koeki-u.ac.jp/>

編集後記 今号は生成AIに関する対談など、「文理の枠を超えあらゆる社会課題に対応する公益大」を編集方針として誌面を組み立てました。小さな冊子ではありますが、先行きが見通しにくい現代にあって次代の針路をグローバルとローカルの両面から発信していきたいと念じています。(加藤)

編集スタッフ 加藤嘉明(編集長、特任教授)、温井 亨(表紙デザイン、教授)、張 紅(助教)、進藤 啓(地域共創センター)、小野田葉奈(同)

表紙イラスト 鈴木玲哉(観光・まちづくりコース3年)

「公益大ニュース」11号 2024年2月発行

発行者：学校法人東北公益文科大学 〒998-8580 酒田市飯森山3丁目5番地の1

Tel：0234-41-1115 Email：kyoso@koeki-u.ac.jp (地域共創センター)
